

観覧
無料

この手書きの文字は
誰が書いたものでしょうか？

手書きは語る
作家のこころ

新収蔵品展

夏目漱石

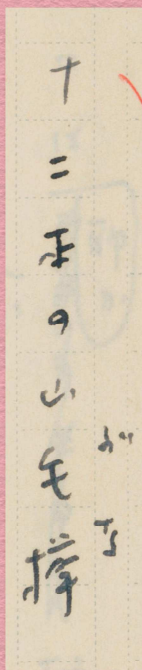
田部重治

飯田蛇笏

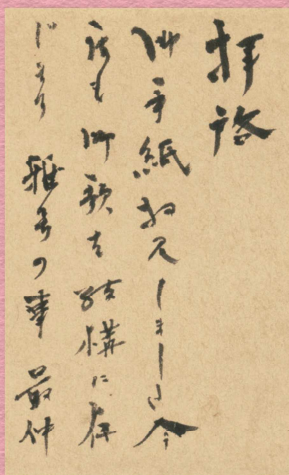
芥川龍之介

井伏鱒二

津島佑子 ほか



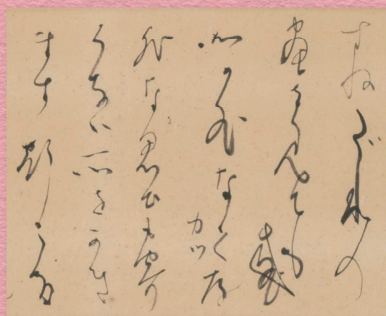
①



②



③



④

すいこう

推敲の跡が見られる原稿、

親しい人に宛てた手紙、

個性豊かな筆跡の書画など、

執筆時の心境が垣間見られる資料を紹介します。

2022年1月29日(土)～3月21日(月・祝)

休館日／月曜日(3月21日は開館)

そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

答え

①井伏鱒二 「十二本の山毛櫨(ぶな)」原稿(タイトル部分)

「別冊文藝春秋」1958(昭和33)年8月号掲載。加筆・訂正の跡からは、推敲の様子がうかがえる。

②芥川龍之介 小沢碧童(へきどう)宛書簡 軸装 1921(大正10)年1月6日(部分)

芥川は碧童の雅号として「最中(もなか)」を勧め、自作の短歌2首を披露している。

③飯田蛇笏 「深山木(みやまぎ)」に雲ゆく蟬のしらべ哉 軸装(部分)『山嵐集』『雲芝』所収。

④夏目漱石 津田青楓(せいふう)宛書簡 額装 1913(大正2)年6月18日(部分) 小川千穂(せんよう)の絵を受け取った礼と、自身も絵を描いたので青楓に見てほしい旨を述べる。漱石の絵画芸術に向き合う姿勢が読み取れる。

閲覧室資料紹介

生誕100年
矢崎源九郎を読む

2月4日(金)～4月3日(日)

1階 閲覧室 入場無料

アンデルセン童話を翻訳した本県出身の矢崎源九郎の生誕100年を記念して、残された多くの児童文学の翻訳作品や著作等を紹介します。



雛飾り&布飾り

2月8日(火)～3月6日(日)

2階 ロビー
鑑賞無料

フラッシュなし
撮影OK



第30回 やまなし文学賞表彰式
3月12日(土) 13:00～

会場：1階 研修室(申込不要)どなたでもご参加できます。

選評：佐伯一麦(作家)

中島国彦(早稲田大学名誉教授)

Exhibition Schedule

特設展

常設展観覧料でご覧いただけます

生誕130年
芥川龍之介展 (仮題)

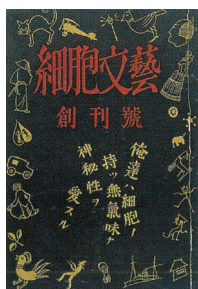
4月23日(土)～6月19日(日)

「羅生門」「河童」「歯車」などの作品で近代文学を代表する作家となった芥川龍之介(1892～1927 東京生まれ)。生誕130年を記念して、当館が所蔵する日本有数の芥川資料のコレクションを中心に芥川の魅力を紹介します。



芥川龍之介

文芸雑誌からZINE(ジン)へ(仮題)



7月16日(土)～8月28日(日)

小・中学校時代の芥川龍之介が友人とともに手書きで作った回覧雑誌や、太宰治が学生時代に仲間と発行した「細胞文芸」など、近代文学において作品発表の場となってきた文芸雑誌。現代では若年層を中心に「ZINE(ジン)」を舞台に、テーマや表現方法など自由な創作活動が展開されています。近代文学を彩ってきた文芸雑誌や、進化を続ける「ZINE」の現状を紹介します。

『細胞文芸』創刊号 1928(昭和3)年5月

企画展

樋口一葉展
生誕150年(仮題)

9月17日(土)～11月23日(水・祝)

樋口一葉(1872～1896)は、逆境のなか職業作家としての道を切り開き、24年の短い生涯に「たけくらべ」「にぎりえ」など、近代文学史に残る名作を残しました。両親が山梨県甲州市塩山出身で、甲州の親戚や知人との交流、山梨を舞台にした作品の執筆など、山梨と深い関わりがあります。本展では激動の時代を生きた一葉の生涯と作品の魅力に迫ります。



樋口一葉

◆利用のご案内

開館時間/展示室：午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで)

閲覧室：午前9時～午後7時(土・日・祝は午後6時まで)

休館日/(新収蔵品展期間中)月曜日(3月21日は開館)

詳しくはHPをご覧ください

観覧料/『新収蔵品展 手書きは語る 作家のこころ』は無料

常設展 一般330(260)円 大学生220(170)円

()内は20名以上の団体料金・県内宿泊者割引料金。

65歳以上の方、障害者手帳をご持参の方、及びその介護をされる方、並びに高校生以下の生徒・児童の観覧料は無料です。

企画展は別途

※新型コロナウイルス感染症予防対策として、ご入館の際にはマスクの着用、検温、手指の消毒、チェックシートの記入をお願いします。

※展覧会、関連イベントが変更・中止となる場合があります。

当館ホームページで最新情報をご確認ください。

そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature



〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-5-35
TEL:055-235-8080 FAX:055-226-9032
https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/

◆交通のご案内

JR中央本線甲府駅より

●甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より御勅使・竜王駅経由敷島営業所・大草経由市川駅・貢川団地各往きのバスで約15分「山梨県立美術館」下車。

※甲府駅からのバスの時刻表は(山梨交通HP)より調べいただけます。

●タクシーで約15分。

中央自動車道甲府昭和インターチェンジより

●料金所を昇仙峡・湯村方面へ出て、200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貢川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。

ホームページ



Twitterでタイムリーに
情報をお届けしています。

山梨県立文学館



@yamanashi_art_literature_park